第2章

高校生の学習観・成績観

第１節　高校生は自分の成績をどうとらえているか

１．成績の自己評価

【中位の３カテゴリーに３人に１人が集中。トップ・レベル（最上位）に自分の成績を位置づける生徒は３％とごく少数。超進学校では自己評価の低さが目立つ。】(図２－１)

Q８	あなたの学校での成績についてうかがいます。 Ａ．現在の総合的な成績は、学年のなかでどのくらいですか。

高校生は自分の成績をどう位置づけているのだろうか。今回の調査では、高校生の成績観を、(1)学年の中での総合的な成績の自己評価、(2)どのくらいの成績がとれたらよいか、(3)現在の成績は別として、うんとがんばれば、どのくらいの成績がとれると思うのか、という３つの側面に分けてとらえた。

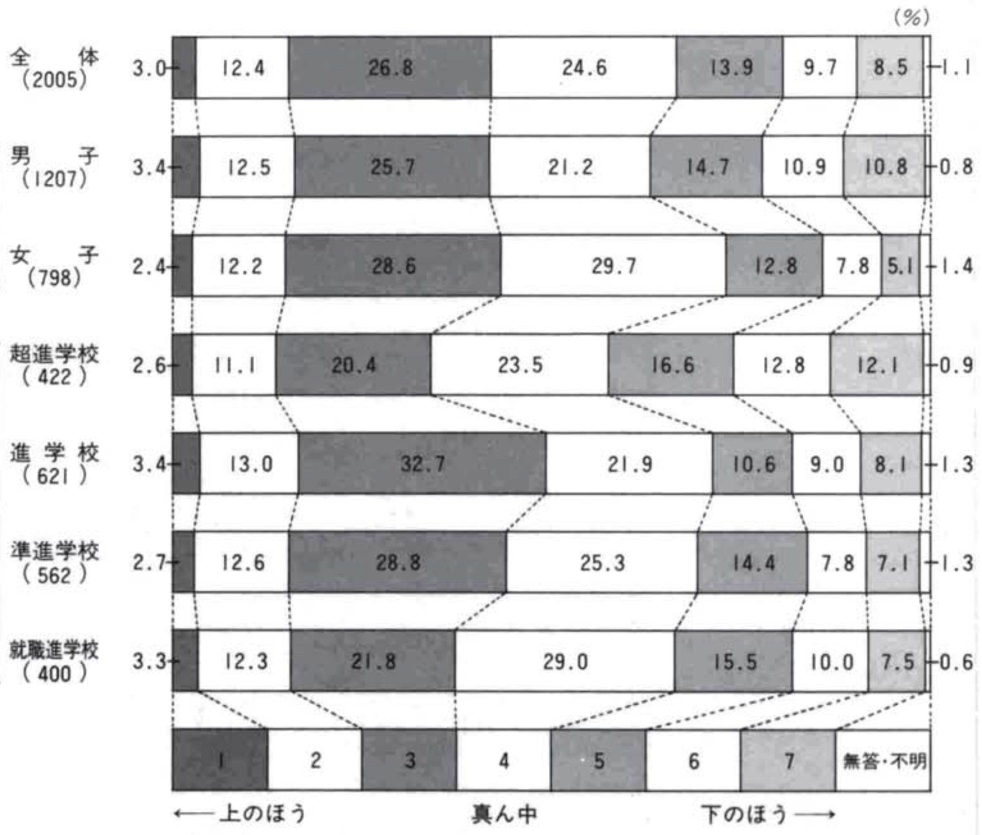
まず学年の中での総合的な成績の自己評価である。選択肢は「上のほう」（選択肢番号１）から「真ん中」(4)を経て「下のほう」(7)まで７段階に分けて、いずれかの段階を選択させた。全体としてみると、「真ん中」(4)とその前後（３および５）の３カテゴリーに65％とおよそ３分の１が集中しており、自己の成績を真ん中あたりに位置づけている生徒が多数派であることがわかる。回答を「相対的に上」（１、２、３）、「真ん中」(4)、「相対的に下」（５、６、７）に３分してみると、それぞれ42％、25％、32％となる。これからみると、学年の中で真ん中あたりよりも下位に自分の成績を位置づける生徒に比べ、上位に位置づけている生徒のほうが相対的に多い。

ただし、自己をトップ・レベル（選択肢１、最上位）に位置づけている生徒は３％とごくごく少数にとどまる。

性別にみると、女子にちょうど真ん中（選択肢４）が多く、男子はその分相対的に下位（選択肢５、６、７）に位置づける傾向がある。

進学状況別には、超進学校で自己の成績を真ん中より下に位置づける生徒が目立つ。真ん中よりも自分の成績が下位であると答えた生徒（選択肢５、６、７）は、超進学校42％、進学校28％、準進学校29％、就職進学校33％である。

図２－１　成績の自己評価



注）（　）内はサンプル数。

２．どのくらいの成績がとれたらよいか

【大半が「真ん中」よりも上位の成績を希望。真ん中以下の成績でもよいという生徒は、１割にみたない。】(図２－２)

Q８	あなたの学校での成績についてうかがいます。 Ｂ．あなたはどのくらいの成績がとれたらいいと思いますか。

では、どのくらいの成績がとれたらいいと考えているだろうか。前項でみたのは成績の現実のレベルだが、次に、希望する成績の水準、アスピレーション（意欲）の側面をみてみよう。

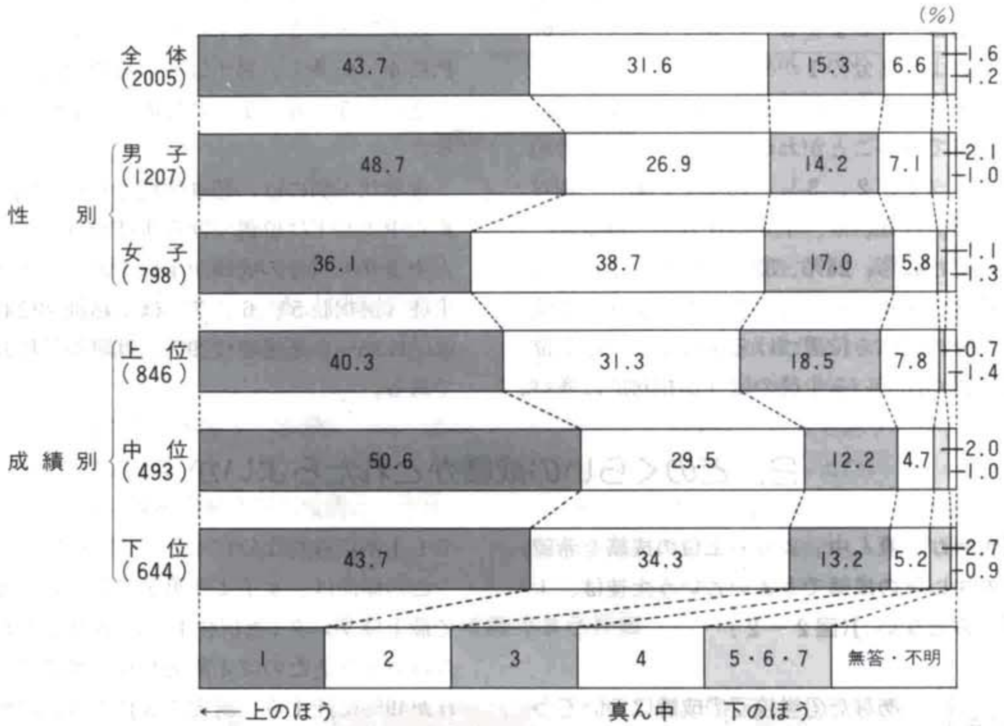
回答は大きく「上のほう」に偏っている。全体としてみると「上のほう」から順に44％（選択肢１）、32％（選択肢２）、15％（選択肢３）であり、この３カテゴリーで９割を超える。逆に「真ん中」から下の成績でよいと答えた生徒は（選択肢４、５、６、７）合計でも１割にみたない。

この傾向は、女子より男子で著しい。女子で最上位ランク（選択肢１）の成績がとれたらいいと答えたのは４割弱だが、男子ではそれが49％に達する。現実の成績の自己評価では男子のほうが若干低い傾向があったが、成績アスピレーションについては、男子は女子より高いといえる。

進学状況別には大きな差異はみられない。

現在の成績自己評価別（図２－１）にみると、顕著な差異があり、成績の自己評価が高い生徒ほど、より高い成績の水準を希望する傾向がある。しかし、現在の成績の自己評価が真ん中より下位の生徒であっても、大半が真ん中以上の成績を希望している。その水準に若干の相違があるものの、どのような成績の生徒ではあっても真ん中よりも高いレベルの成績アスピレーションをもっているといえる。

図2－2　とれたらいい成績



注)（　）内はサンプル数。

3. うんとがんばれば、どのくらいの成績がとれると思うか

【現在の成績はともかく、がんばって自分の能力をすべて発揮したとすれば、学年で中の上以上の成績がとれると、9割の生徒が考えている。】(図2－3)

Q8	あなたの学校での成績についてうかがいます。 C. それでは、現在の成績は別として、あなたがうんとがんばれば、どのくらいの成績がとれると思いますか。

多少妙な質問だが、「現在の成績は別として、あなたがうんとがんばれば、どのくらいの成績がとれると思うか」を尋ねてみた。学業面での潜在的な能力の自己概念をとらえる指標である。

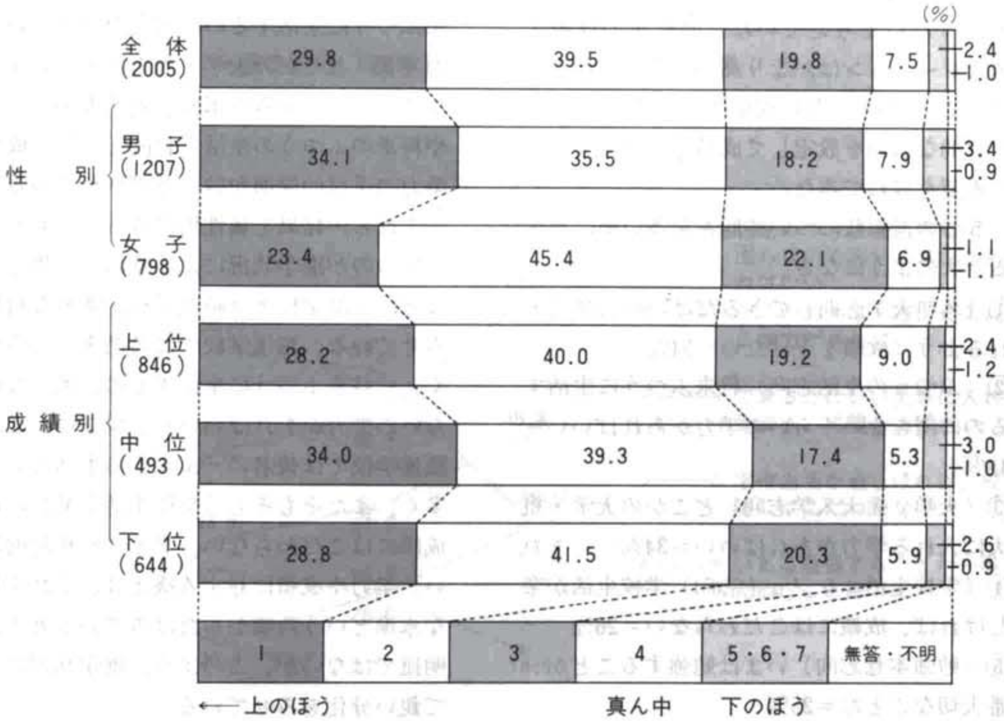
全体の分布をみると、「上のほう」（選択肢1）から順に30％、40％(2)、20％(3)、「真ん中」8％(4)であり、相対的に「下のほう」（選択肢5、6、7）は合計でも2.4％にすぎない。現在の成績はともかく、がんばって

自分の能力をすべて発揮したとすれば、9割の生徒が学年で中の上より上位の成績がとれると考えている。この意味で、高校生の学業面での潜在的な能力の自己概念はかなり高いと考えられる。

この回答を、前述の現在の総合的な成績（学年の中で、図2－1）、希望する成績（図2－2）と比較してみると、明らかに前者よりも後者に近い。このことはすなわち、たとえ現在の成績は下位でも努力次第で成績の上昇が達成できるという見通しを生徒たちはもっており、また希望する成績の水準もまったく根拠のないものではなく、能力の自己概念の高さという、主観的な裏づけをもったものであることを意味している。

ただし、現在の成績の自己評価(図2－1)と潜在的な能力の自己概念（図2－3）の間には明確な相関がある。現在の成績の自己評価が高い者ほど、うんとがんばれば高い成績がとれると答えている。現在の成績は、潜在的な能力の自己概念の1つの決定要因である。

図2－3　がんばればとれる成績



注)（　）内はサンプル数。